

Action against Child Exploitation
Annual Report
2015

特定非営利活動法人 ACE

2015 年度 年次報告書



あたたかいご支援、ありがとうございます！

ACEは今年度も、インドとガーナでの活動を通じて、子どもたちを危険な労働から守り教育の機会を実現することができました。国内では講演活動や様々なイベントを通じて、児童労働問題に対する意識を共有し、エシカルな消費やビジネス、政府への働きかけを通じて、問題解決に向けた行動を呼びかけることができました。2016年5月には、ACEの生みの親ともいえるインドの人権活動家でノーベル平和賞受賞者のカイラシュ・サティヤルティ氏を日本に招き、各地で活動を共にし、2千人を超える人々に直接、児童労働問題解決の必要性を訴えるとともに、50件を超えるメディアでの報道を通じて、問題意識の共有につなげることができました。



ごあいさつ

ACEのチカラをUNLEASH！

「UNLEASH」(アンリーシュ)とは、「解き放つ」という意味。2015年10月に参加した研修「グローバルアンバサダープログラム」で出会った言葉です。日本から11人の女性起業家が選ばれ、既に成功している女性たちとマッチングされ、1週間のプログラムを受けました。ここで私のメンターとなった著名な起業家である久能祐子さんが「メンターの役割は、あなたをUNLEASHすることだから」と言って下さった時、この言葉の具体的なイメージが正直ぜんぜん湧きませんでした。が！1週間後、この研修に参加した11人のUNLEASHされっぶりたら！この出会いとプログラムは、経営者として、活動家としての私の在り方を変えるぐらいのインパクトがありました。

おりしも、世界に1億6800万人もいる児童労働者を2025年までにゼロにするという目標が2015年9月に国連で合意されたば

かり。この新しいゴールに向かって、ACEはどう進むべきかを考えるタイミングです。これまで無理だと思っていたことも含め、型にはまらず考え、チャレンジしたい、今そう思っています。カイヤシュさんを招き、ACE初の英語での国際会議の開催や大規模なパーティーなどを実現したのも、そんな私の考えが反映されていたのかもしれない。

カイヤシュさんが来日中に教えてくれた3つのD、Dream(大きく、良いことの夢を持て)、Discover(自分の強みを活かし、機会を捉えよ)、Do(今すぐやれ!)を実践し、これからのACEの活動を創っていきたいと思います。支援者の皆様には御礼申し上げるとともに、これからもぜひ、新たなACEのジャーニーをご一緒できたら、嬉しいです。

ACE 代表 岩附 由香



チームの力を結集し、2025年の目標達成をめざして

今年度も多くの方々にご支援、ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。今年度は特に、2014年のノーベル平和賞受賞者、カイヤシュ・サティヤルティさん招へい事業を通じて多くの方々に児童労働問題やカイヤシュさんのメッセージを伝えることができました。これまでも世界中で多くの方々の心に火をつけてきたカイヤシュさんが日本でさらに多くの人に行動の火をつけてくれた証として、その後高校生がボランティアに来てくれたり、企業関係者の方々も自分たちにできることをしたいと動き始めてくれたり、変化が起きています。また今年は、日経ソーシャルイニシアチブ大賞にて、国際部門の賞をいただくことができ、教材も複数表彰していただき、ACEが目指してきた、消費者や企業を

巻き込みながら児童労働を解決していく取り組みを評価していただきました。ある程度の成果をもってこれまで実践してきた経験やアイデアを、日本やインド、ガーナに留めるだけではなく、よりグローバルに共有し、広くインパクトをもたらしていくこと、そのためには何ができるか。SDGsの中に掲げられた「2025年にすべての児童労働をなくす」ために、今までにない解決方法、イノベーションをどう起こせるか。カイヤシュさんの来日をきっかけに、そのようなことをより強く感じるようになりました。ACEのさらなるビジョン達成に向けて、みなさんの引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 白木 朋子



表紙写真について:

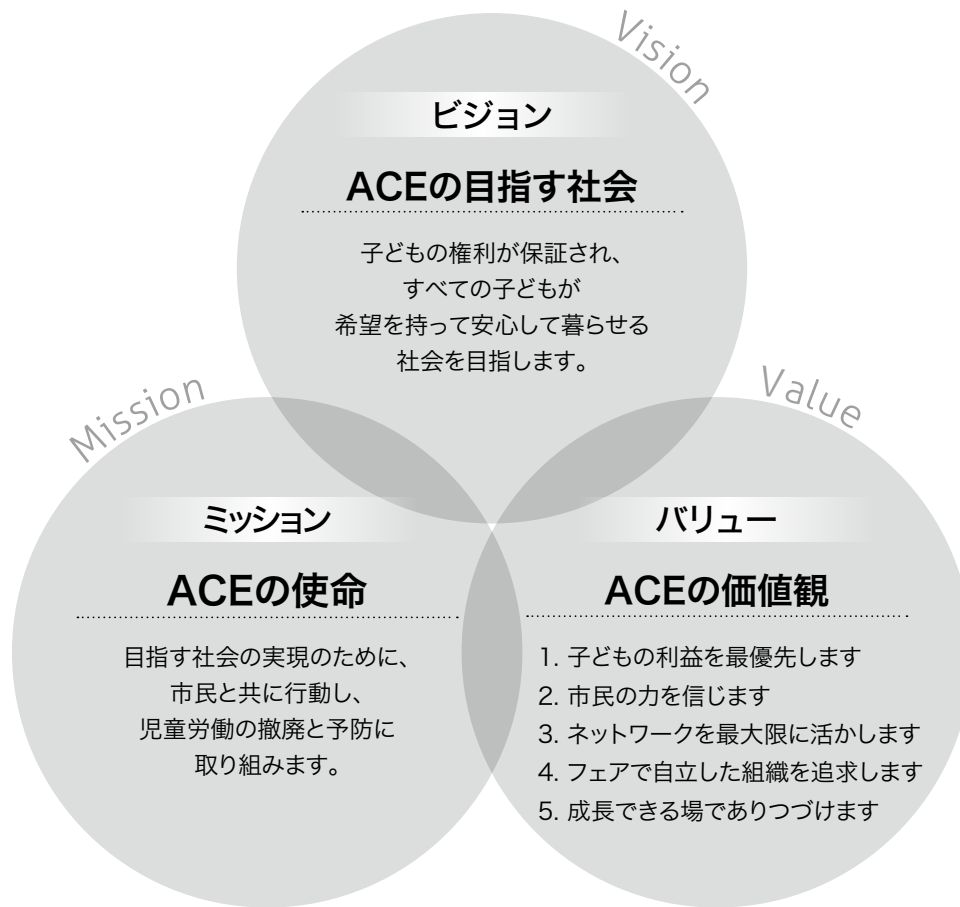
震災被災地、宮城県山元町の親子との交流イベントで子どもたちと「セルフイー」を楽しむカイヤシュさん

報告対象期間: 2015年度(2015年9月1日~2016年8月31日)

ACEの活動理念

ACE(エース)は、世界中のすべての子どもたちの権利が守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。カイラシュ・サティヤルティさん(2014年ノーベル平和賞受賞)が呼びかけた世界的なムーブメント「児童労働に反対するグローバルマーチ」を日本でも実施するため、1997年に学生5人で設立しました。

ACEが目指す社会と使命



ACEの取り組み「児童労働のない未来」を目指して。

インドのコットン生産地とガーナのカカオ生産地で子どもたちを危険な労働から守り、日本で児童労働の問題を伝える啓発活動、政府や企業への提言活動、ネットワークやソーシャルビジネスを通じた児童労働を解決するための活動を行っています。

組織概要

(2016年8月現在)

名称	:特定非営利活動法人ACE
設立年月	:1997年12月1日 発足
	:2005年8月8日 東京都よりNPO法人に認証
	:2010年3月31日 国税庁より認定NPO法人として認定
	:2015年1月19日 東京都より認定NPO法人として認定
事務所所在地	:東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3F
代表者	:岩附 由香
財産規模(総収入)	:9,633万円(2015年度)
職員数	:専従7人 非専従4人 インターン4人
会員数	:正会員142人 賛助会員75人 法人賛助会員27企業・団体
寄付者数	:マンスリーサポーター432人 個人324人 法人62企業・団体
事業内容	:子ども支援事業 アドボカシー事業 啓発・市民参加事業 ソーシャルビジネス推進事業

●役員

理事: 岩附 由香 小林 裕 白木 朋子 新谷 大輔
 安永 貴夫 宮本 聡 丹羽 真理
 監事: 大石 貴子 矢崎 芽生

●評議員

※年1回の評議員会にて組織運営や活動へのアドバイスをいただいています。

秋山 訓子	朝日新聞社 編集委員
生駒 芳子	一般社団法人フットゥラディションワオ 代表理事
江森 孝至	連合総研 主任研究員
小城 武彦	株式会社日本人材機構 代表取締役社長
奥津 雷三	会社員
黒田 かをり	一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事
郷野 晶子	UAゼンセン 国際局 局長
坂本 文武	大正大学 地域創生学部 准教授
桜田 高明	ILO(国際労働機関)理事 / 連合 国際顧問
鈴木 宏二	団体職員
園田 綾子	株式会社クレアン 代表取締役
長坂 寿久	逗子フェアトレードタウンの会 代表理事
並河 進	電通ソーシャル・デザイン・エンジン 代表
萩原 なつ子	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 / 認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事
長谷川 真一	ILO活動推進日本協議会 専務理事
初岡 昌一郎	姫路獨協大学 名誉教授
樋米 ひかる	Ena Communication Inc. 学びの場のデザイナー
古谷 由紀子	サステナビリティ消費者会議 代表
堀内 光子	公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長 / 元ILO(国際労働機関)事務局長補
渡邊 智恵子	株式会社アバンティ 代表取締役

わたしたちが「児童労働」問題に取り組む理由

○児童労働とは

児童労働とは、15歳未満の義務教育を妨げる労働や、法律で禁止されている18歳未満の危険で有害な労働のことです。国連「子どもの権利条約」や国際労働機関（ILO）が定めた「最低年齢条約（ILO第138号条約）」と「最悪の形態の児童労働（ILO第182号条約）」などの国際条約に基づき、各国の法律で禁止されています。

○児童労働の判断基準（“子どもの仕事”との区別）

子どもが働くことすべてを否定するのではなく、「児童労働（Child Labour）」と「子どもの仕事（Child Work）」を分けて考えています。

児童労働 = Child Labour

- 教育を妨げる労働（特に義務教育が受けられない）
- 健康的な発達を妨げる労働（長時間労働、心身の病気や怪我）
- 有害危険な労働（農薬や有害物質にさらされる作業、高所や深海での危険作業）
- 搾取的な労働（買春・債務労働、子ども兵士など）

※ひとつでも当てはまれば「児童労働」です。



子どもの仕事 = Child Work

- 教育を受けることができる
- 子どもの年齢や成長に見合っている
- 健康的な成長を助け、責任感や技能を身につけることができる仕事



○1億6800万人、世界の子どもの9人に1人が児童労働をしています

2013年に国際労働機関（ILO）は、1億6800万人、世界の子ども（5～17歳）の9人に1人が児童労働をしているという推計を発表しました。2000年と比べ、世界全体で児童労働者は7800万人減りましたが、このままのペースでは、2020年になっても1億人以上の子どもが児童労働をしている計算になります。

○世界の共通目標に「2025年までに児童労働の撤廃」が盛り込まれました

2015年9月、国連総会で新たな世界的な国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。このSDGsは、世界が直面するさまざまな問題の解決を目標とし、途上国だけでなく、先進国の政府や企業、市民ひとりひとりの取り組みが求められています。そんなSDGsの目標8「適切な良い仕事と経済成長」の中に「2025年までにあらゆる形態の児童労働を撤廃する」という目標が盛り込まれました。世界各国が取り組んで行くべき課題のひとつに「児童労働」が加わったのです。しかし、今のペースでは、2025年までにすべての児童労働の撤廃は難しいのが現状です。そのため、今まで以上に、市民、企業、そして政府を含め、問題解決へ向けた取り組みを加速させなければなりません。

ターゲット 8.7 の内容

Take immediate and effective measures to eradicate forced labour, end modern slavery and human trafficking and secure the prohibition and elimination of the worst forms of child labour, including recruitment and use of child soldiers, and by 2025 end child labour in all its forms

訳：強制労働の廃絶、現代の奴隷制度および人身取引の廃止、子ども兵士の採用と使用を含む最悪の形態の児童労働の禁止及び撤廃のための即時かつ効果的な措置をとり、2025年までにあらゆる形態の児童労働をなくす（ACE 訳）



ACE中期ビジョンと中期戦略の実績と成果 (2013年9月～2016年8月)

ACEのビジョン「すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会」を実現させるため、中期ビジョンと2013年～2016年の中期戦略を掲げ目標達成に取り組んできました。おおむね目標を達成できましたが、企業のサプライチェーンでの児童労働の予防と組織の財政基盤の強化は目標に達しませんでした。2016年からの新たな中期戦略は策定中です。

中期ビジョン	児童労働から抜け出し、適切な教育の機会を得て、権利を回復する子どもが増えている	子どもの権利に関する意識が高まり、児童労働等の権利侵害から子どもを守る運動が国内外に広がっている	児童労働の解決のための選択肢として、フェアトレードやエシカル消費、ACEの活動を支持する市民の行動が広がる	児童労働がないことを目指した、エシカルなビジネスを実践する企業が増えている	人的・財政的支援が集まり、市民からの信頼を得て、社会的責任を果たしながら成果を上げている
	↓	↓	↓	↓	↓
中期戦略	児童労働から子どもを救出する“ACEモデル”プロジェクトを拡大し、教育を受けられる子どもを増やす	児童労働問題の重大性・緊急性への理解を市民～国際レベルで高める	児童労働を撤廃・予防するビジネスを浸透させ、それを支持する消費者を増やす	児童労働がない社会を支持するコミュニティを創る	
目指す成果・目標	●スマイル・ガーナプロジェクト:7村。児童労働をやめて教育を受ける子ども150人。教育支援する学齢期の子ども4,720人 ●ピース・インドプロジェクト:3村。児童労働をやめて教育を受ける子ども250人。教育支援する学齢期の子ども1,730人	●児童労働が重大な子どもの権利侵害で持続可能な社会の発展を阻害する課題であることが認識され世論が形成される ●児童労働が地球規模課題のひとつとして援助実施団体（国際機関、政府、NGOなど）に認知されている ●全国区の新聞、テレビで児童労働に関する記事や番組が報道される（毎年2件以上） ●ACEの支援プロジェクトが日本モデルとして海外でも認知される ●ポストMDG'sの達成目標に児童労働の撤廃が盛り込まれる	●次世代の消費者層である子ども、若者世代を中心に、フェアトレード等の認知が高まる ●ACEの活動の直接参加者が増え国内グループ活動が増える ●講師派遣参加者数5,000人（年間）、キャンペーン参加者数1,500人（年間）、映画「バレンタインー揆」動員数10,000人（通算）	●支援地カカオを使った商品が継続して製造・販売され商品アイテムが増える ●支援地カカオを使ったフェアトレードチョコレートがコンビニやスーパーで通年で販売される ●支援地コットンを使った製品が完成し販売を開始する。百貨店など買い物しやすい場所での販売が決まる ●児童労働を予防するサプライチェーンを確立する企業が増える（5社） ●児童労働や人権が企業にとって重要なイシューであるとの認識が広がる	●組織を支える支援者が増える ●海外プロジェクトや事業を支える財源が増える（寄付収入6,200万円／年間、事業収入4,200万円／年間） ●ACEを支援する活動やグループが全国に広がる ●優秀なスタッフが集まり、継続して能力を発揮している
実績	【子ども支援事業】	【アドボカシー事業】	【啓発・市民参加事業】	【ソーシャルビジネス推進事業】	【組織管理】
	●（ガーナ）計画していた7村でプロジェクトを実施。3年間で228人の子どもを児童労働から保護し教育を実現することができた。2009年から活動してきたタノ地区全域をカバーすることができた ●（インド）当初計画していた2村でプロジェクトを実施。目標の250人を超える357人の子どもを児童労働から保護し教育を実現することができ、加えて義務教育の機会を失った女子105人に教育と職業訓練の機会を提供することができた。プロジェクトを終了した村で住民グループが自主的に現地で団体登録を進めるなどプロジェクトによって村の自立を進めることができた	●持続可能な開発目標（SDGs）の8.7に「2025年までにあらゆる形態の児童労働を終焉させる」ことが明記され、国際目標に児童労働が掲げられた ●2015年より国際会議など、さまざまな参加機会が急激に広がり、国際ネットワークの構築が大きく進んだ。 ●2016年5月のカイラシュ氏招へい事業期間中に多くのメディアに取り上げられ、全国メディアでの掲載は3年間で50件となった。それにより、児童労働について知る人を増やし、地域的にも広げることができた	●講師派遣参加者は毎年5,000人を超え、児童労働ネットワークのキャンペーン参加者は年間9,500人と目標を大きく上回った。映画総動員数も11,000人に達した ●消費者教育の広がりを通じて講師派遣や教材が広がった。児童労働のみならず、消費者としての責任や行動の重要性を認識する人を増やすことができた。特に若い世代への広がりが際だった ●てんとうちョコなどの販売を続けることにより、フェアトレード商品の購入など、エシカルな消費についてメッセージを発信し、消費者に機会を提供することができた	●支援地のカカオを使い大手菓子メーカーによる国際フェアトレード認証チョコレートをアジアおよび日本で初めて実現することができた。フェアトレードチョコレートの通年販売、コンビニやスーパーでの販売も実現することができた。高級チョコレート市場にも参入することができた ●支援地コットンの輸入が実現。ロゴやタグを含むビジネスモデルが完成。この先の展開が見込めるところまでできた ●企業のサプライチェーンのコンサルティングは5社に提案を行なったが実施は継続案件1社に留まった	●個人会員は微減。法人団体会員は微増。マンスリーサポーターは当初目標を2年目に下方修正。支援者の獲得が課題として残ったが、大口寄付者の支援を広げることができたことがひとつの成果 ●中期目標に対し寄付収入で86%、事業収入で53%の達成率に留まった。ただし、成長率では寄付収入が初年度比134%、事業収入が125%と増収となった ●地域グループについては、数は増やさない方向に方針転換。福岡、仙台、名古屋の地域グループ、学生チームPeACE、社会人チームが活動、ママチームが新たに発足した。ボランティアはほぼ目標達成。スタッフも数が増え、継続して働ける体制を整えている

ACE 各種の賞を受賞

様々なステークホルダーと連携し、
幅広い分野で活動しているACEの取り組みが
高く評価され、各種の賞をいただきました。

『このTシャツはどこからくるの?』 「消費者教育教材資料表彰」最優秀賞を受賞

ACEオリジナル教材「このTシャツはどこからくるの?」は、「消費者教育教材資料表彰」(公益財団法人消費者教育支援センター主催)平成26年度優秀賞を受賞し、その受賞作品計19点の中から、さらに学校教員から審査され、平成27年度に最優秀賞を受賞しました。この教材は、日本の子ども、消費者、企業等が、コットンを通じて児童労働について考え、問題解決に向けた行動を起こすきっかけをつくることを目的に開発し、2015年2月より販売しています。学校をはじめ、企業、地域等で活用いただいています。

教材を手にした先生の感想:「ガイドブックの「コラム」の内容が幅広い。家庭科や総合的な学習の時間等でも資料として活用できそうだと思います。」

※このDVDは、公益財団法人庭野平和財団の助成を受けて制作しました。



授賞式の様子

第4回「日経ソーシャルイニシアティブ大賞」 (国際部門賞)を受賞

「優れたソーシャルビジネスへの取り組み」を実践する団体を表彰する「第4回日経ソーシャルイニシアティブ大賞」で「国際部門賞」を受賞いたしました。消費者や企業を巻き込みながら児童労働のないビジネスモデルを作る取り組みを評価していただきました。

東京、大手町の日経ホールで行われた授賞式では、代表の岩附由香と事務局長の白木朋子が登壇し、ACEの活動理念や今後のビジョンを披露させていただきました。人気モデルで、社会問題に対しても深い関心をお持ちの河北麻友子さんとお父様の河北洋一さんがサプライズゲストとして会場に駆けつけてくださり、お祝いのメッセージを贈ってくださいました。



河北麻友子さんから花束を受け取る岩附代表と白木事務局長

映画『バレンタイン〜揆』学校教育用DVD 「消費者教育教材資料表彰」優秀賞を受賞

同じくACEオリジナル教材である映画『バレンタイン〜揆』学校教育用DVDが「消費者教育教材資料表彰」平成27年度優秀賞を受賞しました。映画は、日本の女の子3人が、ACEが活動するガーナの力カオ生産地を訪れ、児童労働の問題と出会い、悩み、闘った物語です。2012年にACE設立15周年を記念して製作、2013年から自主上映会も開始し、2016年8月までに海外2ヶ所を含む、200ヶ所で約11,000人を動員しました。この映画を学校教育用DVDとして、日本語・英語字幕を追加して2016年2月8日から販売開始し、消費者教育教材として学校で活用されています。

※このDVDは、住友商事株式会社からのご支援と、MDRT Foundation-Japan (一般社団法人MDRT 日本会の社会貢献部門)の助成を受けて制作しました。



受賞したコットン教材と映画DVD

2014年ノーベル平和賞受賞者 カイルシュ・サティヤルティ氏とともに 各地で児童労働問題解決への行動着手を提唱

2016年5月13日～16日の間、カイルシュ・サティヤルティさん(2014年ノーベル平和賞受賞者)を日本に招へいし、2千人を超える方々へ児童労働の問題を伝え、解決のためのアクションを呼びかけることができました。

カイルシュさんは、ACE設立のきっかけとなった1998年の「児童労働に反対するグローバルマーチ」の創始者であり、いわばACEの生みの親。ACEのNPO法人化記念シンポジウム等、これまで何度も来日していますが、今回はノーベル平和賞受賞後初の来日となりました。かなり

前から要請しやっと実現した今回の来日。世界中を飛び回るカイルシュさんを4日間も独占し、計30件の講演、面会、インタビューを受けていただきました。

今回の招へいの大きな目的は「児童労働の問題を、政府、企業、市民に伝え、解決に向けたアクションを起こす人を増やす」こと。カイルシュさんは来日中に2,192人の方に直接語りかけ、政財界のリーダー、これからの時代を担う若い世代や子どもなど様々な方々と語り合い、児童労働をなくすための行動を呼びかける力強いメッセージを残していきました。報道は53件

(2016年5月～8月末)に上り、NHK、日本テレビなどのテレビニュースやAERAの表紙を飾るなど、多くの方に目にしていただけの媒体で紹介いただけたことは、児童労働の問題をより多くの方に知っていただく貴重な機会となりました。また今回のカイルシュさんの来日をきっかけに、ACEが事務局を務める児童労働ネットワークとして、政府へ取り組み強化を求める署名を厚生労働大臣、文部科学大臣に提出できたことも、大きな成果でした。



ACEチャリティパーティー



ゲリラシネマ上映会前のトークイベント

「値段のないレストラン」



宮城学院創立130周年記念ホームカミングデーでの講演



戦略円卓会議での基調講演



公開シンポジウム



宮城県山元町での親子交流イベントにて



SDG ターゲット 8.7 戦略円卓会議



馳文部科学大臣との会談



「値段のないレストラン」終了後の記念撮影

主な活動

- 5/13 SDGターゲット8.7戦略円卓会議でステークホルダーの役割を海外ゲストと共有(東京都千代田区 庭のホテルにて)
- 5/14 G7サミット倉敷教育大臣会合で児童労働問題解決への連携を訴え(主催:文部科学省)
- 5/14 公開シンポジウム「私からはじまる児童労働のない未来」で3つのDを唱える(東京都文京区 文京学院大学にて)
- 5/15 被災地の宮城県山元町を訪問し、GRA 代表岩佐大輝氏と対談、子どもたちとも交流
- 5/15 宮城学院創立130周年記念ホームカミングデーの講演で思いやりと連帯を呼びかけ(宮城県仙台市にて)
- 5/15 来日記念ACEチャリティパーティーで「子どもに希望を」と呼びかけ(東京都千代田区 帝国ホテルにて)
- 5/16 馳文部科学大臣と会談、新たな取り組みを提案(文部科学省 大臣室にて)
- 5/16 逢沢一郎議員を表敬訪問、「日本として責任を果たしたい」との思いを共有(議員会館にて)
- 5/16 「日本にはリーダーシップを果たす能力も責任もある」と議員懇談会でアピール(議員会館にて)
- 5/16 ゲリラシネマ上映イベントのトークショーに登壇(主催:HEAPS.株式会社)
- 5/16 「値段のないレストラン」を開催(主催:HEAPS.株式会社)

主な関連報道

テレビ・ラジオ

- 5/14 NHK 総合(深夜ニュース)「ノーベル平和賞受賞者 児童労働撲滅を訴え」
- 5/16 NHK BS1(世界のトップニュース)「世界の児童労働を考える」
- 5/18 J-WAVE JAM THE WORLD「児童労働をテーマにカイラシュ・サティヤルティさんに聞く」
- 5/19 NHK 総合(くらし☆解説)「エシカル消費って、何？」
- 7/28 日本テレビ(news every. タネをまく人)「ノーベル平和賞・サティヤルティ氏×児童労働と闘う」

新聞

- 5/15 東京新聞「児童労働の製品 身の回りから撲滅を」
- 5/15 河北新報「宮城学院女子大でノーベル平和賞・サティヤルティさん講演 思いやりの心 世界に」
- 5/18 毎日新聞「カイラシュの三つのD」
- 5/23 河北新報「生きる力育んで インドの活動家対談イベント」
- 5/27 読売新聞「貧困、過激思想…教育で解決」
- 6/10 毎日新聞「児童労働の廃絶を訴えるノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティさん(62)」
- 6/25 朝日新聞「子どもの権利活動家 カイラシュ・サティヤルティさん 児童労働の根絶をめざし闘う」

雑誌

- 5/25 女性自身(2016年6月7日号)「あなたの無関心が子供たちの夢見る自由を奪っています」
- 6/15 THE BIG ISSUE JAPAN(289号)「被災地からー ノーベル平和賞 カイラシュ・サティヤルティさん」
- 6/27 AERA '16.7.4号(No.29)「不可能なことは何もない。我々はみな、勇気を持っている」

2つの村で住民同士が協力し合い、 子どもを守る活動が広がってきました！

インドのコットン生産地域で、子どもを労働から守り教育を支援するとともに、住民が自ら児童労働のない村づくりができるよう自立を図る「ピース・インド プロジェクト」を実施しています。

211人の子どもが新たに児童労働から抜け出し、 教育を受けられるようになりました。

2つの村で始めた活動は3年目に入り、プロジェクトへの認知、理解が村の住民に広がっています。児童労働から保護し、プロジェクトで運営するブリッジスクール（補習学校）で基礎教育を学んだ子どもは113人、そのうち50人が公立学校に編入しました。66人の子どもは労働をやめて直接公立学校に通うようになりま

した。また、義務教育年齢を過ぎた女子32人が職業訓練センターへ通うようになりました。1年間に211人が児童労働から解放され、2014年からのプロジェクト開始後の累計では、これまでに407人の子どもがコットン栽培などの労働をやめて教育を受けられるようになりました。

「子どもは学校で勉強するんだ！」と声をあげる子どもと笑顔で見守るおとな（マッデラバング村の集落）



インド・コットン生産地の子ども支援活動「ピース・インド プロジェクト」の概要

対象地域（実施期間）	インド テランガナ州マハブナガル県マルダカル地区 マッデラバンダ村、タティクンタ村 (2014年4月～2018年3月)	
主な受益者	義務教育年齢（5～14歳）の子ども約1,500人、 15～17歳の女子約145人、親や住民約8,200人（約1,200世帯）	
パートナー団体	SPEED（Society for People's Economic & Educational Development）	

※本プロジェクトの実施には、連合「愛のカンパ」、日本教職員組合、UAゼンセン、グンゼラブアース倶楽部、ティ・ディ・パワーシステムズ・リミテッド日本事業所、花王ハートボケット倶楽部、アシックス労働組合、国際ソロプチミスト仙台、WE21ジャパンほどこがやなどの企業・法人、個人のみなさまからのコットン募金を活用させていただきました。

学校に通えなかった女の子にも教育と自立の機会を

義務教育年齢を過ぎた女の子のための職業訓練センターの運営をしています。読み書きや計算などの基礎学力をつけると共に、仕立て屋になるための技術を学ぶことを目指しています。9ヶ月間の訓練を終えた女の子は、健康に害のない室内の安全な環境で仕立て屋として仕事をすることができます。そして将来、嫁ぎ先でも技能を活かし、また教育の大切さを実感して、自分の子どもにも教育を与えることにもつながります。1期生が訓練を終え、現在2期生が通いはじめました。



訓練を終え、仕立て屋を始めたバーギラクシュミさんとその両親(タティクンタ村)

住民の意識にも変化がみられるように

スタッフや住民ボランティアグループによる地道な活動が村全体に広がり、子どもの権利を守ろうとする動きが見られるようになりました。親が村の外に出かせぎに行く際には子どもを親戚に預け、村の学校に通い続けられるようにする、結婚適齢期まで結婚させることを延期し児童婚を止めるなどの行動が起きています。また子どもが継続的に学校に通い続けられるよう、公立学校の教員と住民が協力して教育環境の整備にも取り組むようになってきました。さらにこの変化を広げ、住民による「児童労働のない村」づくりができることを目指しています。



スタッフが子どもを働かせる家庭で話し合いを行う様子(タティクンタ村)

子どもの教育を支える親の収入向上支援

仕事がないなど経済的に困窮して子どもを学校に通わせられない親を対象に、収入手段を確保する方法として、ヤギ・羊の畜産業や、日用品・食品を販売する売店運営などの起業融資支援を行っています。家計管理に関する研修や、親の意向やカーストの職業を尊重したビジネスの支援を行っています。これらの結果、これまで日雇い労働などをしてきた親が、子どもが稼ぐお金がなくても自らの収入で家計を安定させ、子どもを学校に通わせ続けることができるようになりました。



融資支援された機械で葉を削り良質なボウキを作る母親(マッデラバンダ村)



胸をはって勉強できるようになったサワランマさん

職業訓練センターで笑顔を見せる様子

マッデラバンダ村に住むサワランマさん(15歳)は、8歳の時にコットン畑で働くように親に言われ、学校を中途退学しました。「『お嫁に行く時にお金が必要だから女の子は働かなくてはいけない』と言われていたので何も言えなかったけど、本当は学校に通う兄や弟が羨ましかった」とサワランマさん。現地スタッフが家庭訪問と親との話し合いを続け、職業訓練センターへなら通わせてもよいと許可が得られました。最初は反対していた母親も、今では女の子の教育の大切さを理解し、彼女が作った服をととても喜んで着ています。サワランマさんは「自分が勉強した結果が認められることが嬉しい」と話してくれました。



サワランマさんの母親

4つの村で子どもが守られ学校に通えるよう 住人たちによる努力が実を結んでいます。

ガーナのカカオ生産地での児童労働をなくし、持続可能なカカオ栽培ができるようになる村を目指し、「スマイル・ガーナ プロジェクト」を実施しています。

2年間に205人の子どもが教育を受けられるように 学校インフラも大幅に改善されました。

2014年9月からプロジェクトを行っているアシャンティ州アチュム・ンブニャ郡のカロンゴ村、ジュレソ村、タノドゥマセ村、ンスオテム村の4村で、子どもの保護、学校環境の改善、カカオ農家の収入向上等のための活動を行いました。その結果、今年度1年間で15人が労働をやめ、2年間で合計205人が新たに学校に就学するようになりました。

学校のインフラについては、これまで小学5年生までの教室しかなかったカロンゴ村で新たに6年生のための教室が増築されるなど、目に見えて学校環境が改善されてきています。また教員に対するトレーニングを通じて、学校教師の能力向上に努めました。さらにカカオ農業トレーニングや互助会の活動を通じて、農家の人々の収入が向上しました。

児童労働反対のプラカードを掲げるタノドゥマセ村の小学生



ガーナ・カカオ生産地の子ども支援活動「スマイル・ガーナ プロジェクト」の概要

対象地域（実施期間）	ガーナ アシヤンティ州アチュマンブニユ郡 カロンゴ村、ジュレソ村、タノドゥマセ村、ンスオテム村とその周辺集落 (2014年9月～2016年8月)	
主な受益者	義務教育年齢(4-15歳)の子ども約2,200人、およびカカオ生産農家約3,500人(約550世帯)	
パートナー団体	CRADA (Child Research for Action and Development Agency)	

※本プロジェクトの実施には、てんとう虫チョコの売上によるご寄付と、森永製菓株式会社、セブン&アイ アベスコ基金、株式会社フェリシモLove & Thanks基金、立花商店株式会社、古藤事務所、株式会社ファンケル、ファンケルグループ「もっと何かできるはず基金」、株式会社ファンケル化粧品、三笠商会株式会社などの企業・法人、個人のみならずからのチョコ募金を活用させていただきました。

児童労働の問題や子どもの権利への 人々の理解が深まりました

4村では、住民によって組織された「子ども保護委員会」が畑や家を訪問して、学校に行っていない子どもがいる家族を説得したり、支援が必要な子どもに対して学用品を支給したりしました。それにより、村の人々は児童労働の問題や子どもの権利、教育の大切さをとてもよく理解するようになりました。また子どもたちによるグループ「子ども権利クラブ」では、「学校に来ないで働いている子どもがいたら親か先生に相談しよう」と話し合い、子どもたちによる活動も徹底されるようになりました。



子ども権利クラブの話し合いの様子

学校環境が目に見えてよくなっています

カロンゴ村は、これまで小学校5年生までの教室しかなく、生徒は6年生になると、遠く離れた別の学校に通わなければならなかったのですが、2016年6月に教室が増築され、同じ学校で学べるようになりました。またンスオテム村では、昨年設置が決まった中学校の建設が進んでいます。さらに教育局による教員向けのトレーニングを実施し、教員は清潔な学校施設を維持することで生徒の学習意欲が上がることを学び、その後、学習環境を良くするための努力を続けるようになりました。学校環境の整備にはアベスコ基金からのご支援を活用させていただきました。



新しく増築されたカロンゴ小学校の教室の前で

雨不足にも負けず、カカオ農家は 子どもの教育を支援しました

2015年秋から2016年にかけては、雨不足によりカカオ生産に深刻な打撃を与えるとの予想がありました。しかし、カカオ農業トレーニングを受けて適切な栽培方法を学んだ農家は、生産量を維持することができました。また他の農家も「互助会」で貯蓄をしたり融資を受けたりして、子どもの教育費を拠出し、学校に通わせることができました。農業訓練や融資を通じて、カカオ農家の生活の安定を実現できました。



農作業後の夜にミーティングをする
互助会のメンバーたち

人身取引で連れて来られてきたアマドゥ君とモハメド君

アマドゥ君(14歳)とモハメド君(12歳)は、ジュレソ村近郊の集落にあるカカオ畑で働くため、カカオ農家の雇い主によってガーナ北部から連れて来られました。これは人身取引にあたるため、社会福祉局と協力して2人を保護しました。2人は、州都クマシにある孤児院にしばらく預けられ、食事やカウンセリングなどの必要なケアを受けました。カカオ畑で働いていた時とは一転して、笑顔の絶えない表情に変わっていました。これから住民と協力して、危険な児童労働や人身取引を事前に防ぐ努力を続けていきます。



アマドゥ君(右)とモハメド君(左)ガーナ担当の近藤(中央)

ガーナの支援地産「児童労働のない」カカオ豆が ついに日本に上陸！ ショコラティエによるビントゥーバーが実現！

カカオ産業で児童労働をなくすことをめざした「しあわせへのチョコレートプロジェクト」の一環として、
ガーナのカカオ生産地で「スマイル・ガーナ プロジェクト」を行うほか、
カカオやチョコレートを扱う企業や消費者が児童労働の解決に貢献できるよう、様々な連携を進めています。

ガーナ産カカオを使った 「児童労働のない」チョコレートが増えました

2015年1月に実現した、ガーナの支援地でとれたカカオを原料に使った、森永製菓の国際フェアトレード認証チョコレートが、オンラインショップにて継続販売されました。森永製菓の社会貢献活動「1チョコ for 1スマイル」の取り組みを社内外にアピールするため、エコプロダクツ展での展示や社内勉強会の開催に協力しました。

2016年3月には、「スマイル・ガーナ プロジェクト」を行っている村で生産されたカカオ豆が初めて日本に到着。カカオ豆からチョコレートを作ることが可能となりました。かねてからACEの活動に共感していた、ショコラティエ パレド オールのオーナーシェフ 三枝俊介氏が、このカカオ豆を使った特別なチョコレートギフトを製作。5月15日に帝国ホテルで開催した「ノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティ氏 来日記念チャリティパーティー」の参加者へのお土産として使用しました。また、カカオ豆からチョコレートを作るまでのすべてのプロセスを三枝シェフが手がけた「ビントゥーバー」の板チョコレートも製作。2016年9月の公式販売に先駆けて、5月から先行販売しました。



三枝俊介シェフによるチョコレートのお披露目
(カイラシュ氏来日チャリティパーティーにて)



2015年12月に数量限定発売された
「ショコラ プー・ラ・ポーテ」

ファンケルより、キレイとカカオ生産地の子どもたちを 応援する美容チョコレートが発売

2015年1月にファンケル化粧品の創立 35 周年を記念して数量限定で発売された美容ショコラ「ショコラ プー・ラ・ポーテ」が2015年12月にも数量限定で販売されました。「ショコラ プー・ラ・ポーテ」とはフランス語で「美しさのためのチョコレート」の意味。「美しくなりたい」と願うすべての女性に喜ばれる化粧品の枠を超えたキレイを応援するアイテムとして、美肌成分が配合されたこのチョコレートの売上の一部を、ガーナのカカオ生産地の子どもたちを児童労働から守る「スマイル・ガーナ プロジェクト」にご寄付いただきました。

米国、英国で次々と「企業とサプライチェーンの人権、児童労働」に関する法律が成立

米国では「米国ビジネスサプライチェーンの人身取引と奴隷の透明性に関する法律」(2014年)、英国では「現代奴隷法」(2015年)が成立しました。

これらはいずれも、企業に強制労働、奴隷制度、人身売買、児童労働などのリスクがサプライチェーンにあるかどうか、またそれに対するアクションを行ったか否かの「情報公開」を義務付ける法律です。さらに、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)の第19.6条には「各締約国は、あらゆる形態の強制労働(児童の強制労働を含む)を撤廃するとの目標を認める」「全部または一部が強制労働(児童の強制労働を含む)によって生産された物品を他の輸入源から輸入しないよう奨励する」とあります。これらはいずれも、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」の流れを受けたものであり、サプライチェーンの人権課題として企業が具体的なアクションをとることを促すものです。日本でもこのような法制化を目指し、ACEはアドボカシー活動を展開していきます。

エシカル消費を推進するために

ACEは、私たちの暮らしの背景にある、児童労働をはじめとする生産者による人権侵害などの問題や環境問題などに目を向けた、エシカル(倫理的、道徳的)なビジネスや消費を推進するため、企業や団体と連携し、様々なイベントや取り組みを行いました。

オーストラリアの エシカル消費について知るイベントを開催

2015年10月23日、認定NPO法人環境市民と共催で「オーストラリアのエシカル消費最前線～ITを活用したエシカルファッション推進事例～」を東京都内で開催しました。オーストラリアでファッションブランドが与える環境や社会への影響についての情報を見ることができるアプリ「Good on You」を開発したエシカル・コンシューマーズ・オーストラリア代表のゴードン・ルノフ氏を招き、エシカル消費の最新動向について話を伺いました。またACEからはコットン産業での児童労働について、環境市民からは持続可能な消費について発表し、日本におけるエシカル消費の推進について理解を深めるパネルディスカッションを行いました。

※本イベントは平成28年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けました。



エシカル・コンシューマーズ・オーストラリア代表 ゴードン氏



パネルディスカッションの様子(ギルスビー氏:右から2番目)

繊維業界の国際ネットワーク Textile Exchangeとイベント共催

2016年6月20日、東京都内にてTextile Exchange主催、Global Organic Textile Standard(GOTS)、株式会社Control Union Japan(CUJ)、ACE共催で「Textile Exchange JAPAN DAY～今、求められるサステナブルテキスタイル～」を開催し、約80名の来場がありました。米国のTextile Exchange本部からアン・ギルスビー氏を招き、世界の繊維業界の現状について講演いただきました。また日本でオーガニックコットン等を扱う国際認証機関や企業、大学教授とのパネルディスカッションにACEも参加し、国際認証が果たす役割や企業の取り組みについて議論を深めました。

※本イベントは平成28年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けました。

グンゼラブアース倶楽部様より インド支援地へ肌着寄贈

「ピース・インド プロジェクト」で支援する2つの村のブリッジスクールと職業訓練センターに通う子ども向けに、200着のタンクトップやキャミソール、パンツなど肌着のご寄付をいただき、2015年10月に現地に届けました。真っ白な肌着を受け取った子どもたちは、スタッフから毎日着替えたり、洗濯をして、衛生に気をつけることの大切さを学び、綺麗な肌着を清潔に保って使うことを約束しました。ご支援いただいたグンゼラブアース倶楽部様に感謝申し上げます。

新品の肌着を自慢げに見せる子どもたち



2大臣へ児童労働への取り組み強化の要請を行いました

今年度のアドボカシー活動は、カイラシュさんの来日をきっかけに大きく躍進することができました。

初めて、文部科学大臣、厚生労働大臣の2大臣へ署名の提出と申し入れを児童労働ネットワークとして行うことができました。

カイラシュ・サティヤルティ氏と教育・児童労働を語る会

5月16日、ACEが事務局を務める児童労働ネットワークと教育協力NGOネットワークの共催で「カイラシュ・サティヤルティ氏と教育・児童労働を語る会」を行いました。当日は12名の国会議員を含め、50名以上の参加がありました。参加した議員の中には、カイラシュさんの話に感銘を受け、行動を決起する人もいました。



カイラシュさんを囲んで記念撮影



塩崎厚生大臣に署名を提出

ストップ児童労働50万人署名を大臣、政務官に提出

児童労働ネットワークでは、2015年3月から7月まで「ストップ児童労働50万人署名」を行い、合計51万3,935筆を集めました。その署名を2016年1月に外務省の濱池政務官に、6月には塩崎厚生労働大臣、馳文部科学大臣に提出しました。児童労働ネットワークからは、2015年に採択されたSDGsに「2025年までに児童労働をなくす」ことがターゲットとして明記されたことや、日本における児童労働問題について説明しました。大臣、政務官からは、問題の深刻さを理解し、できることを行っていくとのコメントがありました。今後もACEは児童労働ネットワークなどと協力して、政府や企業などへのアドボカシー活動を継続していきます。

過去最高を達成！ 日本全国で、レッドカード+1アクション！

児童労働ネットワークでは、5月5日～7月7日まで「ストップ！児童労働 キャンペーン2016」を実施しました。3年目となる「レッドカードアクション」は、「レッドカード+1アクション」と名を変え、SNSへ写真投稿と共に児童労働をなくすために自分ができることを表明するアクション宣言への参加も併せて呼びかけました。期間中は、過去最高の9,518名が参加、Facebookページはのべ約15万人にリーチすることができました。



「世界中のこどもたちが夢をあきらめない世の中になるよう、フェアトレード商品の導入を検討していきたい。」のメッセージと共に、児童労働にレッドカード！

「市民ネットワークforTICAD」の代表として、 第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)に参加

アフリカの開発問題を話し合う「第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)」が、2016年8月27日から28日にかけて、ケニアの首都ナイロビで行われ、ACEも参加する市民ネットワークforTICAD(Afri-can)の世話人を務

める近藤が、同ネットワークの代表として参加してきました。同会議では日本、アフリカの様々な市民社会の代表と協力し、市民社会の意見を本会議の場で表明しました。またサイドイベントでは近藤が登壇し、児童労働

の危険性と教育の重要性を訴えました。会議では、地元ケニアやカメルーンなどで、子どもの権利や若者のエンパワーメントを促進するNGOなどと交流し、現地の児童労働の様子や活動内容について意見を交わしました。



TICADVIのサイドイベントに登壇する近藤(左)



市民ネットワークforTICAD (Afri-can)の世話人一同と



TICADVI本会議場外観



授業案を作成する参加者

コットンを題材に 「消費者教育授業パワーアップ講座」を開催

2016年8月1日に教員を対象にした「消費者教育授業パワーアップ講座〜このTシャツはどこからくるの?〜」を開催しました。コットンワークショップの体験、インド現地プロジェクトや授業事例の紹介の後に、参加者を中学や高校などの学校別・教科別にグループ分けし、授業案を作成するワークを行いました。家庭科教員からは実際にオーガニックやフェアトレード製品の販売店舗を調べる授業、社会科教員からはフェアトレード製品などの価格比較を行い、企業に意見書を送る授業など、企業の社会的責任に着目した案などが発表されました。今後も学校現場で消費者教育が浸透するようセミナー等を行っていきます。

76件の講演・ワークショップを実施、 8,577人が参加

学校や企業、一般市民向けのイベントやセミナーへの講師派遣を行っています。2015年9月〜2016年8月の期間に76件の依頼を受け、8,577人を対象に講演等を実施しました。テーマは国際理解、人権など様々ですが、消費者教育への関心の高まりを受け、エシカル消費をテーマにした依頼も多くありました。受講した高校生からは「児童労働の問題を知って、私たちが今あたりまえのように生活していることは決してあたりまえではないと改めて感じました。」などの感想が聞かれました。

中学校の授業でワークショップを行う様子



児童労働をもっと身近に

イベントやボランティア、キャンペーンへの参加、グッズ購入など様々な参加機会を提供し、活動を発展させることができました。

「Dream, Discover, Do! ～ノーベル平和賞受賞者カイラシュさんが教えてくれたこと～」 カイラシュさんの来日を振り返るトークイベントを開催

2016年6月12日の「児童労働世界反対デー」当日に、東京の目黒にあるHUB TOKYOで、2016年5月に来日した、2014年ノーベル平和賞受賞者でインドの人権活動家、カイラシュ・サティヤルティさんとの日々を振り返るトークイベントを開催しました。当日は、電通ソーシャル・デザイン・エンジン代表の並河進さんとACE代表の岩附が登壇し、カイラシュさんから受け取ったメッセージを振り返り、児童労働のない未来のために私たちにできることを考えました。

参加者からは、「『Dream, Discover, Do』夢を持って、自分にできることを見つけ、行動することの大切さを知ることができました。」などの声が聞かれました。



参加者の皆さんと児童労働にレッドカード！

参加費が寄付になるチャリティセミナー「これからの私たち」を開催

これからの「生き方」や「働き方」を考え、なりたい未来の実現に向かって、参加者自身が一歩を踏み出すことを目指す連続チャリティセミナーを開催しました。



和やかに語りかける桐嶋さん

第3回 手放すことで開けた私の未来 ～失って得た私の道筋～

2015年12月19日、日比谷図書文化館にて、講師にフリーアナウンサーの桐島瑞希さんをお迎えして開催しました。桐島さんは「湘南国際マラソン2015」にチャリティランナーとして出場し、ACEへの寄付を集めてくださいました。

「自分にしかできないこと」を追い求める中、自ら手放したものだけでなく意図せず失ってしまったものもあったけれど、人と出会い、チャリティランに挑戦をすることになり、それをきっかけに新しい「仕事」や「仲間」、「価値観」に出会うことができたと話してくださいました。

第4回 松下幸之助の『道をひらく』を読む ～ 毎日繰り返し読み見えてきた、人として、経営者としての道のひらき方～

2016年8月3日、グロービス経営大学院東京校にて、講師に株式会社小宮コンサルタンツ代表取締役小宮一慶さんをお迎えして開催しました。小宮さんが座右の書とされている松下幸之助のロングセラー「道をひらく」から、人として、経営者として参考にしてこれたメッセージの数々をご紹介いただき、不透明な時代を力強く生きていくためのヒントとなるお話をお聴きすることができました。当日は最前線で仕事をする中堅世代の会社員をはじめとして多彩な顔ぶれのみなさんが参加され、熱心に聴き入っていらっしゃいました。



講演中の小宮さん

「そのこ」の未来キャンペーンの一環として、クラウドファンディングを実施

今年で3年目となる、谷川俊太郎さんの詩「そのこ」を通じて児童労働の現状を伝え、児童労働のない社会を実現するための活動資金を集める「そのこ」の未来キャンペーンを実施しました。6月にはクラウドファンディングサイト「JAPANGIVING」を通じて「夢も、希望も、命も奪う。そんな児童労働から子どもを救いたい!」プロジェクトを立ち上げ、22日で約200名から340万円を超えるご寄付をいただくことができました。

ボランティアの皆さんの協力で各地のイベントに出展

今年も全国各地の支援者・ボランティアの皆さんと一緒に各地の国際協力イベントに出展し、児童労働問題を伝え、児童労働をなくすためのアクションへの参加を呼びかけました。

主な出展イベント (開催地:協力団体)

グローバルフェスタ JAPAN(東京:タカシマヤ一粒のぶどう基金様)／ワールド・コラボ・フェスタ(愛知:ACE名古屋グループ)／地球市民どんたく(福岡:ACE福岡グループ)／ワン・ワールド・フェスティバル(大阪:大阪商業大学 下山ゼミの皆さん)／せんだい地球フェスタ(仙台:ACE仙台グループ)



グローバルフェスタにて、ボランティアの皆さんと



社内販売会に協力くださった皆さん ©Salesforce.org

「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」

累計販売数12万個突破!

今年も、売上の一部がACEの「スマイル・ガーナ プロジェクト」への寄付になる「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を販売しました。チョコの包装・発送作業は、引き続き岩手県陸前高田市の就労支援施設、社会福祉法人燦々会 あすなるホームの皆さんにお願いしました。また、ACE事務所や協力法人様のオフィスで開催した「チョコボランティア」にも多くの方にご参加いただき、チョコの検品や包装作業をおこないました。

企業・団体単位でのご購入や、職場での販売会の実施、学園祭での販売、チョコボランティアなどを通じて、多くの法人の皆さまにご協力いただきました。オンラインショッ

プやイベント等での販売も合わせた販売数は、15,247パック(約570万円)となりました。うち約155万円が、チョコ募金としてガーナでの活動に役立てられました。2009年から始めた「てんとう虫チョコ」の販売は、累計販売個数が12万個を突破し、チョコを通じた寄付額は1,300万円に上りました。ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございます。

ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

企業・団体単位のご購入59件、職場での販売会実施17件、店舗取扱い17件、
学園祭での販売15件、法人単位でのボランティア協力9件 ほか

味の素労働組合、アプレール洋菓子店、アルファジャズ、一般社団法人生き方のデザイン研究所、一般社団法人地域デザインプラットホーム 大人の秘密基地アルコイリス、伊藤ハム労働組合関西支部、ウシオ電機株式会社、エフケーユーテック株式会社、株式会社アバンティ、株式会社神奈川ナブコ、株式会社ジェーシービー、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、株式会社セールスフォース・ドットコム、株式会社チームスピリット、株式会社テラスカイ、株式会社トウ・アドキョーピー、株式会社ハーツハーモニー、株式会社郵船アカウンティング、株式会社BEAUSOLEIL、キッコーマン労働組合、倉敷紡績労働組合 裾野支部、グンゼ株式会社、社会福祉法人はぐくみの里、俊和管理株式会社、全日本たばこ産業労働組合、全日本たばこ産業労働組合 北関東支部、ソフトバンク・テクノロジー株式会社、タカシマヤ “一粒のぶどう基金”、大和証券グループ、小さな一日限りのフェアトレードショップ、東亜工業株式会社、特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク、特定非営利活動法人WE21ジャパン・ほどがや、WE21ジャパン・なか東亜工業株式会社、なかよし薬局、長町遊楽庵びすた〜、日清オイリオグループ労働組合、日本郵船株式会社、フェアトレード・ショップ風"s、福井東ロータリークラブ、フジパングループ労働組合、プレジデントウーマン編集部、三菱商事株式会社、ヤマエ労働組合、有限会社あずさ監査法人、有限会社カフェスロー、有限会社チェンジ・エージェンツ、有限会社光工房、吉川帽子株式会社、リコーITソリューションズ株式会社、労済労連、ART・SION/湯布院九条の会、cocoa cafe nook、Hair Design lagurus、HEAPS株式会社、J-オイルミルズ労働組合、naughty、NTT労働組合 西日本本社総支部、Radixの会、UAゼンセン ほか(五十音順、敬称略)

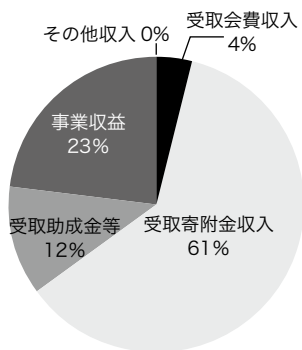
活動計算書

(単位：千円)

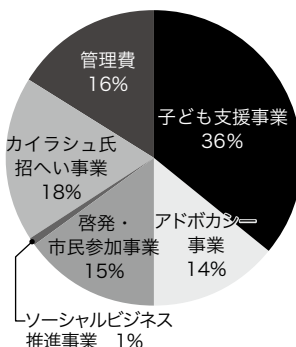
科目	2014年度決算	2015年度予算※	2015年度決算			達成率	昨年度比	2016年度予算
			本 体	世界の子どもの 権利基金	合計			
I 経常収益								
1 受取会費	3,594	3,664	3,810	0	3,810	104%	106%	4,664
正会員	1,404	1,344	1,440	0	1,440	107%	103%	1,344
賛助会員	2,190	2,320	2,370	0	2,370	102%	108%	3,320
2 受取寄付金	51,375	59,847	58,057	240	58,297	97%	113%	60,900
ACE111 募金（一般寄付）	21,475	30,472	34,047	0	34,047	112%	159%	23,000
チョコ募金	21,701	20,000	16,217	0	16,217	81%	75%	20,000
コットン募金	7,888	9,375	7,748	0	7,748	83%	98%	12,900
チャイルドフレンドリー募金	42	0	43	0	43	-	104%	0
東日本復興応援募金	0	0	2	0	2	-	-	0
世界の子どもの権利基金	271	0	0	240	240	-	89%	5,000
3 受取助成金等	4,656	14,451	11,862	0	11,862	82%	255%	16,010
4 事業収益	22,162	23,688	22,289	0	22,289	94%	101%	28,504
5 その他収益	70	500	80	0	80	16%	113%	2,000
経常収益計	81,858	102,150	96,097	240	96,337	94%	118%	112,078
II 経常費用								
1 事業費	66,482	88,045	78,369	0	78,369	89%	118%	86,435
人件費	24,170	26,723	26,347	0	26,347	99%	109%	32,037
その他経費	42,313	61,322	52,022	0	52,022	85%	123%	54,398
2 管理費	11,167	17,189	15,137	0	15,137	88%	136%	19,418
人件費	7,061	9,239	9,161	0	9,161	99%	130%	12,060
その他経費	4,107	7,950	5,977	0	5,977	75%	146%	7,358
経常費用計	77,650	105,234	93,506	0	93,506	89%	120%	105,853
当期経常増減額（税引前）	4,208	-3,084	2,591	240	2,831			6,225
法人税、住民税及び事業税	70				70			
III 当期正味財産増減額	4,138	-3,084			2,761			6,225
IV 前期繰越正味財産額	6,761	10,899			10,899			13,660
V 次期繰越正味財産額	10,899	7,815			13,660			19,884

※2015年度予算は、期中にカイラシュ氏招へい事業の実施が決定したため、期中に修正したものを表記しています。

2015年度 収入内訳



2015年度 支出内訳



財務状況の分析

2015年度は、カイラシュ氏招へい事業実施に際しての大口寄付やクラウドファンディングなどにより、寄付収入が昨年度比113%の5,829万円となりました。また当年度は助成金獲得にも注力し、昨年度比255%の1,186万円を受領しました。その結果、経常収益は、昨年度比118%の9,633万円となりました。

昨年度課題となった為替の影響への対処については、為替リスクの回避を図るために外貨口座を開設し、米ドルでの資金調達を行いました。また期中に実施が決定したカイラシュ氏招へい事業に係る資金需要に備え、実施前に融資を受けキャッシュフローの安定化につなげました。

これらの結果、当期正味財産増減額は、276万円のプラスで終わることができました。

貸借対照表

(単位：千円)

I 資産の部	
科目	金額
1. 流動資産	21,096
現金・預金	15,101
現金	165
外貨	45
普通預金	14,132
郵便振替口座	760
売上債権	452
売掛金	452
棚卸資産	2,485
その他流動資産	3,057
前払費用	3,007
仮払金	50
2. 固定資産	1,304
有形固定資産	94
建物附属設備	94
車両運搬具	0
投資その他資産	1,210
敷金	1,200
出資金	10
資産合計	22,400

II 負債の部	
科目	金額
流動負債	1,640
未払金	1,084
預り金	156
未払法人税等	70
未払消費税	330
固定負債	7,100
長期借入金	5,000
預託金	2,100
負債合計	8,740

III 正味財産の部	
科目	金額
正味財産合計	13,660
前期繰越正味財産	10,899
当期正味財産増減額	2,761
負債及び正味財産合計	22,400

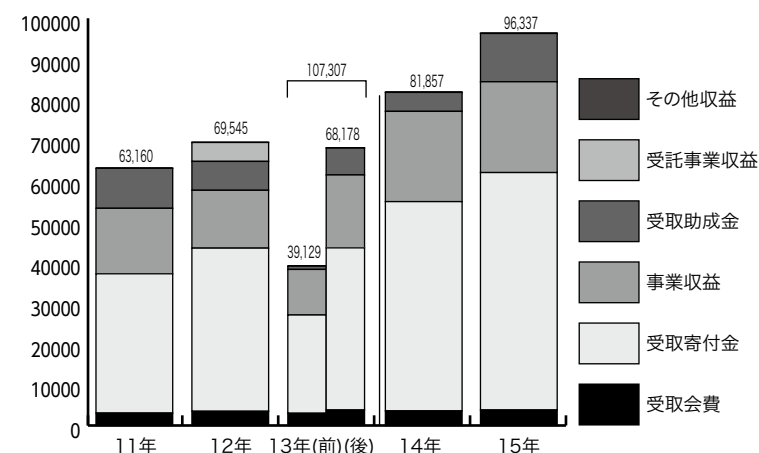
<重要な会計方針>

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法：最終仕入原価法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法：有形固定資産：定率法
- (3) 引当金の計上基準：引当金の計上はありません
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理：施設の提供等物的サービスに関する会計上の計上はありません
- (5) 消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は、税込経理によっています

収入の推移

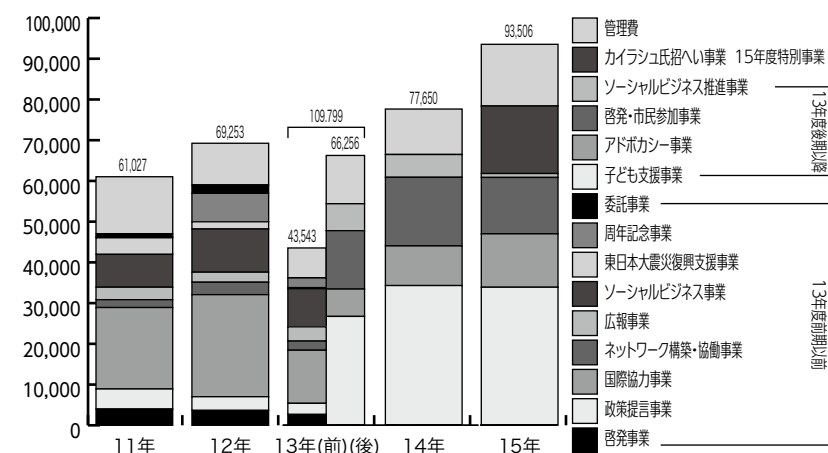
(単位：千円)



※2013年に事業年度の変更を行ったため「13年(前)」(2013年1月～8月)「13年(後)」(2013年9月～2014年8月)に分かれています。

支出の推移

(単位：千円)



※2013年に事業年度の変更を行ったため、「13(前)決算」は、2013年1月～8月までの8か月間となります。

※2013年度(後期)より事業の編成を行い事業名を変更しています。

監査報告書

監査報告書

2016年10月3日

特定非営利活動法人 ACE

代表 岩附 由香 殿

特定非営利活動法人 ACE

監事 矢野 牙生

監事 水口 貴子

特定非営利活動法人 ACE 定款第15条第4項の規定に基づき、2015年度における理事の業務執行の状況及び財産状況について監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

以上

ご支援いただいたみなさま

2015年度も多くの個人・企業・団体のみなさまにさまざまな形でご支援をいただきました。
あたたかいご支援に、こころより感謝申し上げます。

●個人会員・寄付

正会員142人 | 賛助会員75人 | マンスリーサポーター432人 | 一時寄付324人 | クラウドファンディング199人 |

●法人会員 27企業・団体

特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク | 旭化成株式会社 繊維事業本部ベンベルグ事業部 | アシックス労働組合 | 株式会社アバンテージ |
株式会社アバンティ | 有限会社イトウェル | ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 | 株式会社クレアン | 興和株式会社 | 株式会社小宮コンサルタンツ |
株式会社シンゾーン | 株式会社新藤 | 仙台ACE 支援書道教室 | 仙台児福会同窓会 | 株式会社立花商店 | 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス |
株式会社東京建設コンサルタント | フード連合（日本食品関連産業労働組合総連合会） | 不二製油グループ本社株式会社 | みちのくペテトクラブ | 株式会社ヤマグチマイカ |
リシュモン ジャパン株式会社 | ロイドレジスター クオリティアシユアランス リミテッド | 株式会社budori | OrangeOne 株式会社 | SU 小ACE を支援する会 | UA ゼンセン |

●法人寄付 62企業・団体

アシックス労働組合 | 株式会社エンゼルの森 | 株式会社神奈川ナブコ | カリタス女子中学高等学校 | キューピー株式会社 QPeace | グンゼ株式会社 |
グンゼラブアース倶楽部 | 国際ソロプチミスト仙台 | 株式会社古藤事務所 | Sachiko Kuno Foundation | 株式会社セールスフォース・ドットコム |
全国労済労働組合連合会（労済労連） | 捜真女学校 | 代沢インターナショナルスクール | 株式会社立花商店 | ティ・ディ・パワーシステムズ・リミテッド 日本事務所 |
株式会社ディノス・セシール | 日本教職員組合 | ハースト婦人画報社 | 株式会社ファンケル | ファンケルグループ「もっと何かできるはず基金」 | 株式会社ファンケル化粧品 |
株式会社フェリシモ LOVE & THANKS 基金 | 株式会社フクイ | 福井東ロータリークラブ | 富士ゼロックス株式会社 | 富士ゼロックス端数倶楽部 |
本門佛立宗神奈川布教区 婦人会 | 宮城学院同窓会 | 宮城学院中学校・高等学校 | 明星大学人文学部 国際コミュニケーション学科 毛利ゼミ | 森永製菓株式会社 |
株式会社リクルート 住まいカンパニー S-mile 基金 | DAMCHULIFE | HEAPS. 株式会社 | NTT 労働組合（ドコモ本部／西日本本社総支部／東京グループ連絡会） |
OrangeOne 株式会社 | UA ゼンセン | 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや | ※誌面の都合により、5 万円以上の寄付をいただいた団体・法人のみ掲載しています。

●その他の協賛・協力

株式会社 IMAGICATV | 株式会社ウィズダムアカデミー | 有限会社ウエストフィールド・コンサルティング | 英会話教室 Lesson4U | Ena Communication Inc. |
M&Partners International | 株式会社神奈川ナブコ | グロービス経営大学院 | 高円寺 Grain | 株式会社 GRA | タカシマヤ 一粒のぶどう基金 |
株式会社ソニー・デジタルエンタテインメント | Nakajima Consultancy Services LLP | パンローリング株式会社 | 株式会社ファンドレックス |
山元町教育委員会 生涯学習課 | 教育協力 NGO ネットワーク | 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター | 特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン |

●助成金

セブン&アイ アベスコ基金 | 連合・愛のカンパ | 株式会社セールスフォース・ドットコム | 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金 |
MDRT Foundation-Japan | 独立行政法人国際交流基金 日米センター | 公益財団法人庭野平和財団 | 厚生労働省 職場意識改善助成金（テレワークコース） |
東京都 中小企業ワークライフバランス推進助成金 | 一般社団法人大竹財団 |

■ ACE の支援方法と使途について

認定 NPO 法人である ACE へのご寄付や賛助会費は税額控除や寄付金控除の対象となります。
みなさまのご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会員	正会員（一般、子ども・学生）	ACE の事業と組織運営全体をご支援いただきます。正会員は総会の議決権を持ち、組織運営に参加いただけます。
	賛助会員（個人、企業、非営利団体）	賛助会員（個人、企業、非営利団体）には議決権はありません。
寄付	マンスリーサポーター	1,000 円以上の任意の金額を毎月ご寄付いただく制度です。寄付は国内外の各事業に使われます。
	ACE111 募金	児童労働をなくすための国内外の活動に使われる募金です。
	チョコ募金	カカオ生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	コットン募金	コットン生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	チャイルドフレンドリー募金	海外で実施する活動に使われる募金です。
基金	世界の子どもの権利基金	NPO 法人化5 周年を記念し設立した基金です。周年事業の実施、新規事業や組織基盤の強化に使われます。

主なメディア掲載実績

※カイヤシュ氏関連はP9に掲載

● 2015年

- 9/28 共同通信 「本当は遊びたい」、児童労働廃絶陰しく
- 11/9 織研新聞 エシカル消費セミナー開く
- 12/7 AERA 今、子どもの人権を考える 市民が担う人権意識 具体的な政策提言を

● 2016年

- 2/4 時事通信 バレンタインで受注増 箱詰め委託し被災地支援も
- 2/14 東京新聞 バレンタイン生産地にも愛を 広がるフェアトレード
- 5/26 日本経済新聞 日経ソーシャルイニシアチブ大賞、PWJなど7団体に
- 6/23 織研新聞 今求められる持続可能な繊維 [テキスタイル・エクスチェンジが東京でセミナー]
- 6/28 日本経済新聞 日経ソーシャルイニシアチブ大賞
- 7/13 日本経済新聞 国際部門賞 認定NPO法人ACE「労働より教育 児童救済」(日経ソーシャルイニシアチブ大賞)
- 7/25 毎日放送 MBS ラジオ 「報道するラジオ」夏休み企画その1「学校に行けない子どもたち」、ほか

上記を含め108件の報道でACEの活動が紹介されました。

2015年度の活動スナップショット



カイヤシュさんのスナップショットより



遊ぶ、学ぶ、笑う。
そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。



ピース・インド・プロジェクトを実施する村の民家にて

www.acejapan.org



ー児童労働のない未来へー

特定非営利活動法人ACE(エース)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル 3F
TEL: 03-3835-7555 / FAX: 03-3835-7601 (受付: 平日 10:00~18:00)
✉ info@acejapan.org

ACE(エース)は、世界中のすべての子どもの権利が守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。

東京都より「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」として認定を受けています。認定NPO法人へのご寄付は「寄付金控除」と「税額控除」の対象となります。

発行: 2016年12月31日 / 発行人: 特定非営利活動法人ACE ※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



これは、JANICの「アカウンタビリティセルフチェック 2012」マークです。
JANICの「アカウンタビリティ基準」の4分野(組織運営・事業実施・会計情報公開)について当団体が適切に自己審査したことを示しています。

